令和４年度　自己評価結果公表シート

学校法人　大宮学園　大宮幼稚園

１、園の教育目標

「強く」「正しく」「朗らかに」を園訓とし、心技体の調和の取れた豊かな人間性を育成する。
本園の教育目標として
１、健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培う。
２、人への愛情や信頼感を育て、自立と共同の態度及び道徳性の芽生えを培う。
３、自然などの身近な事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
４、日常の生活の中で言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養う。
５、多様な体験を通じて豊かな感性を育て、創造性を豊かにする。

２、　本年度の学校評価の具体的な目標や計画

本年度は、昨年度より本格的に取り組んでいる知育活動の効果を実感し、園独自のテキストを使用しながら継続的に取り組んでいく。そして、計画的な園内教職員研修や、他園の研究発表会への参加を積極的に行い、個人の指導力向上を図っていく（ECEQ®参加予定）。研究討議においても話し合いをもち、チームとしての指導力向上を図っていく。学期末には、自己点検、自己評価を通して、取り組み状況や進捗状況を把握し、全職員で目的を再確認し共通理解を図りながら進めていく。地域、保護者からの外部評価から、その効果について検証し、保護者のニーズに合った教育活動を目指していく。

３、　評価項目の達成及び取り組み状況

評　価　項　目	取　　組　　状　　況
研修会や研究会に積極的に参加し教員の資質向上を図る。	教職員の指導力の向上を図るために、大阪市私立連合会主催の各種研修会や、講師招聘による園内研修会（ECEQ®実施）、地域研修会などの学習会に参加した。さらに、小学校とも連携をして、交流や情報交換などを行いった。
全教職員による観察・指導	行事では、全教職員で全園児に関わり、多くの視点で子どもを観察するようにした。宿泊行事や各種発表会などの機会には、特に、配慮を要する子どもたちに多くの教職員が関わり、子どもの様子、保護者、他機関からの助言など、教職員間の情報交換を積極的に行えるようにした。
学年会の充実	学年会を定期的に持ち、どのクラスも同じ歩調で指導するようにしたり、配慮を要する子どもたちへは事前に打合せをしたりした。 また、問題が起きても担当保育者が一人で抱えることなく、情報交換から適切な対応ができるように担任を支えることができるように、学年会を充実するようにした。

効果的な指導方法	発達段階からすると指導者から教えることが多くなりがちであるが、子どもたちの主体性を育てるためには、自分たちで考え判断し行動できる環境を整えることが大切である。話し合いの場を多く設定し、観察を通して幼児期に相応しい育ちを工夫した。
安心感ある保育活動	子どもが不安に感じる原因を明らかにすることを心掛け、無理をせず友だちと一緒に活動したり、必要に応じて先生が傍に付いたりして、活動が楽しく終われるようにした。見通しをもたせたりゴールを明確化したりして、子どもが安心して取り組めるようにした。
よりよい友だち関係をつくる。	友だちと積極的に関わっていくようになれるには、「聞いて・見て欲しい」内面的欲求を充足することである。指導者がしっかり子どもの話に耳を傾けるようにした。少しずつ自分以外の友だちの気持ちや考えに気付くようにして、友だちの楽しさに触れさせていくようにした。
基本的な生活習慣の指導	今年度も健康的・衛生的な生活習慣として、「手洗い・うがい・マスク」について重点的に指導した。園だよりを通して啓発を行い、基本的な生活習慣を保護者と連携し身に付けていくようにした。
自立支援	変化に不安を感じる子どもが多い。園生活をできるだけ不安の少ないパターン化したり、予告支援をしたりすることから安心・自立を支援した。身の回りの整理・整頓の大切さを家庭と協力して指導し、家族の一員としての意識を育てることにもなった。
情報の発信	毎月の園だよりやブログで、行事予定や各種案内だけでなく、子ども達の日々の様子を保護者へ伝えた。さらに、緊急情報には各家庭へメール配信も行い、園児の安全管理にも役立てた。

４、　具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結　果	理　　由
A	各項目の達成状況を教職員間で振り返り、内部評価を話し合った。行事や活動が計画的に実施され、特に知育活動が展開されたこともあり、園児の確かな成長が認められたことなどが報告された。保護者からの協力も多く得られた。 ECEQ®認定園にも認定され、他園の職員の方々の意見を聞くことで、改めて自園の保育について振り返ることができた。職員も新たに課題を見つけ、意欲的に今後の保育に活かすことができた。その結果、概ね目標を達成していると判断した。 今後も地域との連携を深め、地域・保護者・園で子どもたちを見守り育てる環境を整えていく。

５、　今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み方法
園内研修会の充実	お互いの保育指導の様子を見合ったり、交換保育をしたりする中で、教職員一人ひとりの持ち味を生かした指導方法を見つけたり、改善点を話し合ったりして、指導技術の向上を図っていく。また、ECEQ®実施や、情報を共有する研修会を行い、自園で取り入れられる活動や指導方法についても話し合い、従来の活動に止まらない新しい活動を作っていきたい。
指導方法の向上	どの子にも「できた」「もっとしてみたい」と、主体的にチャレンジする気持ちを育てたい。また、特別支援の子どもに対しても、環境調整と適切な指導の充実に取り組む。幼児期は、「教える」ことより、「育てる」ことの意識をもち、子どものペースを大切にしながら支援していきたい。
小学校との連携	集団生活を苦手とする子どもたちが増えている原因として、内的な育ちと外的な環境準備の両面からの要因を解消する必要がある。家庭と連携し安心した環境の中で、子ども１人１人の内面的な欲求をしっかり充足しておくことである。また、外的な環境整備として、小学校との交流を密にした取り組みを行っていく。小学校の行事にも園児が参加したり、児童が園を訪問したりして、段差のない移行ができるようにしたい。現在も小学校区の評議委員を担当していることもあり、さらに、幼小の連携を深めていく。

６、　学校関係者評価委員会の意見

・地域からは、地域行事に幼稚園が積極的に関わっていることや、いろいろな子育てに関する相談に対しても、適切に対応されているとの報告があり、概ね高い評価をいただいた。引き続き、地域の子どもたちの健全育成や、保護者の子育て相談できる場としての役割を果たして欲しい旨の要望が出された。

・保護者からは、子どもたちの成長を引き出していただいていることを高く評価する意見が出された。コロナ明け後も、以前と変わらず、子どもの成長を見る機会が多くあり、喜んでいただけた。

多くの意見が激励であったことから、概ね「目標は達成されていた」と判断するに至った。

しかし、人間関係を煩わしく感じ避ける様子が保護者に多く見られ、コミュニケーションの希薄化が進むことから、些細なことでトラブルに発展しているとのことであった。子どもの環境づくりには、保護者同士の関係作りが大切であることから、子どもだけでなく保護者同士で行事に参加する中で、お互いによく知ることができる場づくりも、幼稚園の役割となりつつある。